

庁舎建築に関する研究

熊本県下の市・町・村庁舎建築のO A化について

正会員 桂 英昭※1 ○同 高島 康史※2

同 木島 安史※3 同 両角 光男※4

1 研究の目的と方法

熊本県下では行政改革による事務作業の効率化の提唱によって5年前からO A化が推進されてきたが、O A化の現状については調査されていない。本論では昭和62年度に実施したアンケート調査(98全市町村)、ヒアリング及び実測調査(2市27町村)の結果をもとにO A化の現状を把握する。

調査内容はファクス、ワープロ、パソコン、端末機、コピー機についてそれぞれ台数、利用頻度、利用単位、オペレーターの有無、設置場所である。なお分析に際しては今後の作業継続の為に作成したデータ・ベースを用いた。

2 調査結果の分析

2・1 ファクス (図-1、2)

各庁舎の保有台数は1台程度である。利用頻度はかなり高く、県・支所との連絡に用いられている。設置場所は総務課の執務区画周囲に置かれ、複数の課が使用する場合が過半数を占める。

2・2 ワープロ (図-3、4)

保有台数は2台が最も多く未所有の庁舎は10件未満である。利用頻度は高く設置場所は総務課が一番多いが、18課にわたっており、それぞれの課の執務区画周囲と個室に置かれる場合が多い。設置場所が特定されないポータブルワープロの使用が3件の庁舎で見られる。

2・3 パソコン (図-5、6)

パソコンを所有している庁舎は約半数である。利用頻度は庁舎によって差があり、ヒアリング調査においてあまり使わないと答えたところが11%あった。利用単位は不規則に利用しているところが半数以上あり、実測調査を行った29件中全パソコンの37%が個室(電算室、会議室等)に置かれている。

2・4 端末機 (図-7、8)

電算機を所有している庁舎が98件中21件である。

益城町の例では14台の端末機を所有しており、利用頻度は高い。端末機は各課の窓口業務を主体とするためデスクの末尾(カウンター側)に置かれ、課単位で利用されている例が多い。

2・5 コピー機 (図-9、10)

台数は2台が最も多く、1フロアに1台の割合で置かれており、利用頻度は高い。設置場所は町民課が一番多く、次いで福祉課、税務課、総務課の順となりそれぞれの課の執務区画周囲に置かれる例が多く、次に個室(印刷室)が多い。人吉市の例では狭あいのため、6台が共用スペースに置かれている。

3 今後のO A化 (図-11、12)

ヒアリング調査においてO A化によって作業能率が向上したと回答したところが25件中23件であった。今後のO A化の計画についてはO A化が行われている或は、計画中と回答したところが半数であった。

4 まとめ (図-13、14、15)

本分析において判明したことは、以下の通りである。

- ①ファクス、ワープロ、コピー機は作業効率を考慮して特定の課の執務区画周囲に置かれる。
- ②個室に置かれているパソコンについては利用頻度が高くなるにつれ執務区画に進出してくる傾向にある。
- ③O A化による騒音等のトラブルを挙げたのはわずかなである。
- ④一般デスクとO Aデスクを区別している。
- ⑤どのO A機器についても専属のオペレーターはほとんど存在していない。むしろ各職員が使いこなすように指導している傾向にある。

今後利用頻度が高まるであろうO A機器は個室に置かれるよりはむしろ、執務区画にワークステーション化して積極的に置かれる傾向にあり、ワークステーションは課単位で設けられるようになるであろう。

また、ワープロはパソコン導入の増加によって一体となって利用される可能性が大きい。端末機について

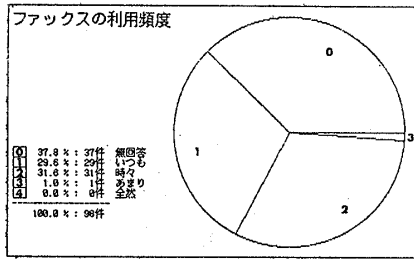


図-1

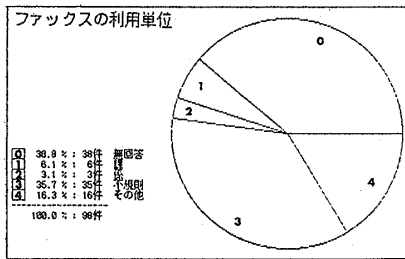


図-2

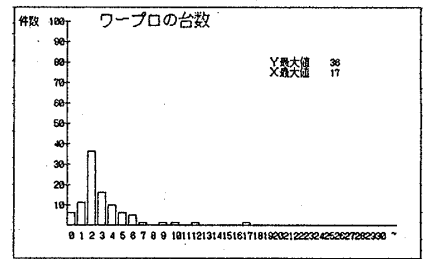


図-3

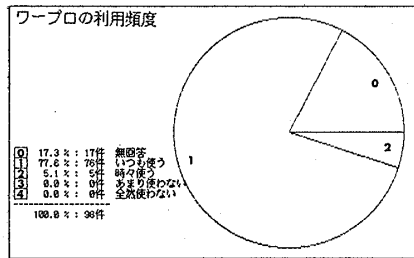


図-4

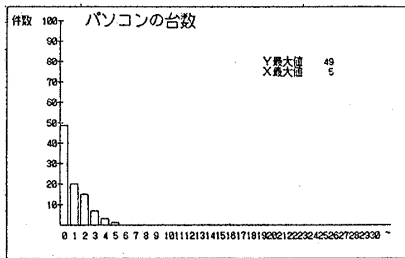


図-5

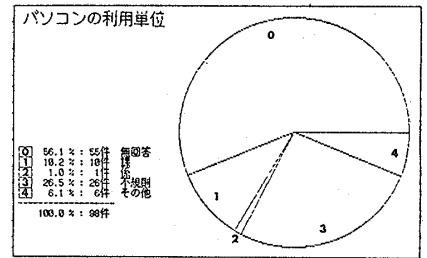


図-6

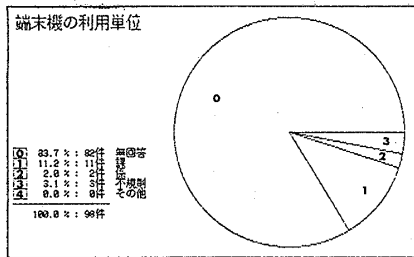


図-7

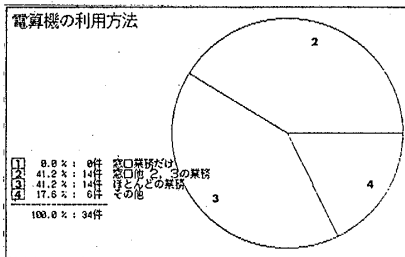


図-8

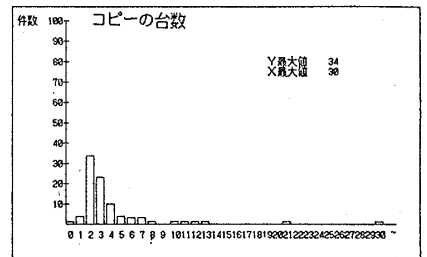


図-9

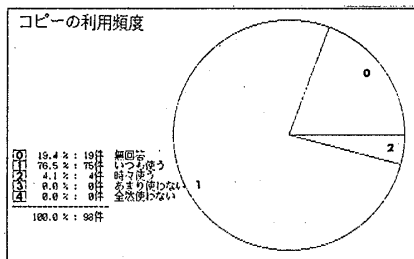


図-10

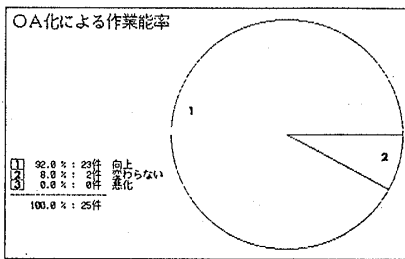


図-11

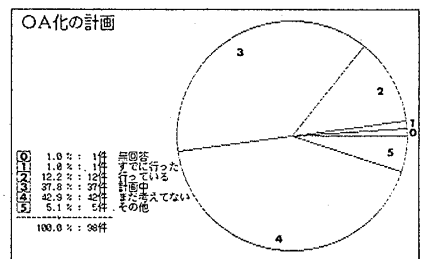


図-12

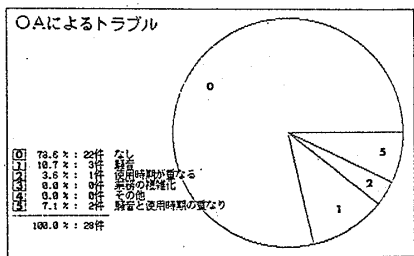


図-13

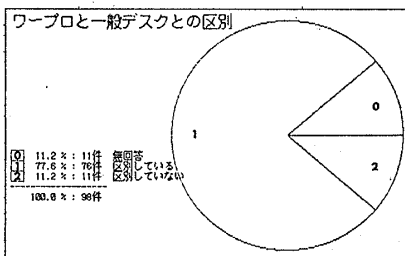


図-14

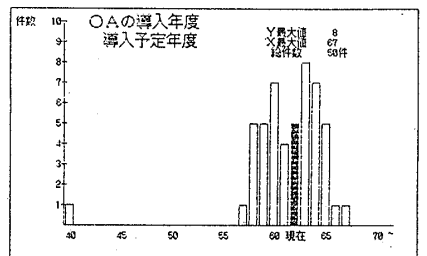


図-15

は、天草地区、宇土地区4町のオンライン化に見られる広域利用の推進がなされるであろう。OA化は現在過渡期にあり、今後もこの傾向が続くものと思われるが、さらに調査・分析を進めていく必要がある。

※ 本研究において、協力していただいた熊本大学の

※1 八代工業高等専門学校助教授 ※2 熊本大学大学院生 ※3 同大学教授(工博) ※4 同大学助教授(工博)

小畑、松永、大町氏に感謝する次第である。また本研究は、科学研究費補助金研究・奨励研究(A) 課題番号62750623(S62年度 桂英昭)の補助による。本論の一部はS.62年度九州支部研究報告/第30号に発表した。